先進のユーザー事例❹　基幹DBを連携した情報系システムの開発

株式会社ロゴスコーポレーション

Delphi/400で実現した「満足度100%」の営業支援システムが稼働

POINT
- Javaの開発に挑むが断念し、新たなツール探しへ
- RPGに特化したDelphi/400のコンポーネント群で開発生産性を向上
- 要望の高かった商品提案書の自動作成システムを実現

COMPANY PROFILE
創業：1928年　設立：1953年
本社：大阪府大阪市
資本金：4億3398万円
売上高：40億円
従業員数：80名
http://www.logos-co.com/

Javaの利用を断念し新たな開発ツールを検討

キャンプ用品・登山用品・海水浴用品などのアウトドア用品やスポーツ用品を製造・販売するロゴスコーポレーションは、1990年代半ばから続くアウトドアブームに後押しされ、順調に業績を拡大してきた。

最近のヒット商品は、「エココロロゴス・シリーズ」。これはカーボンオフセット組み込み商品として、森林を伐採せずに、不要物のヤシガラを有効利用する炭燃料であり、環境保護活動への姿勢も注目されている。

同社はシステム/38の時代に販売・仕入・在庫・物流などの基幹業務システムを構築し、改良を加えつつ今に至っている。現在は、2007年11月に導入したSystem i (9406-520)を使用。できるだけ外注せず、自社内で開発する内製主義を掲げ、システム部門に相当する情報物流室所属の開発者3名が、RPGを使ってさまざまな開発を担ってきた。

そんな同社が、Javaを採用して照会系業務のWeb化に取り組んだのは2002年頃のことである。

「その頃、米IBMのロチェスター研究所がSystem iの開発言語をRPGからJavaへシフトするロードマップを発表しました。これからはRPGではなくJavaの時代かと思い、Web系のアプリケーション開発にPure Javaを使ってみようと考えたわけです」と当時を振り返るのは、春木治室長（管理本部情報物流室）である。

しかし開発をスタートさせたものの、RPGと言語特性が大きく異なるJavaの利用ではさまざまな困難が生じた。悪戦苦闘を続けるも、エラーの解析、アプリケーションの拡張や保守など、実際の業務運用に堪え得るシステムレベルには至らず、結局1年足らずでJavaの開発を断念したという。

ただしユーザー部門からはさまざまな機能拡張の要望が寄せられており、情報物流室では5250の処理環境には限界を感じていた。そこでSystem iのデータベースとRPGによるビジネスロジックは継承しつつ、Javaのような自由度の高いユーザー・インターフェースと情報処理の最適化が可能なツールの検討を開始したのである。

2年近くにわたり、多種多様なツールを検討したが、最終的に採用を決定したのは「Delphi/400」（ミガロ）であった。選定要件となったのは、5250画面の単純なWeb化／GUI化ではなく、DB2/400以外のデータベースへのアクセスや商品画像の処理など、多様な拡張要件に対応可能であること。その点、Delphi/400はこの要件を満たすだけでなく、Javaで苦労したSystem iとの通信制御などの機能が、RPGに特化したコンポーネントとして多数用意されている点も魅力だったようだ。

「導入決定前に多数の質問をミガロのテクニカルサポートにしたのですが、こちらの立場に立って丁寧に答えてくれたので、サポートへの信頼も得られ

春木 治氏
管理本部 情報物流室
室長

ました。そこでDelphi/400の採用を決定しました」(春木室長)

第1号開発は商品提案書の自動化システム

導入は2007年末。翌年1月からすぐに開発に取り組んだのは、「商品提案書の自動化」である。商品提案書はそれまで営業担当者が、個別にExcelで作成していた。これに対し、品番の入力のみで商品の概要やスペック・画像・価格を自動表示し、90%程度を自動作成。残りは数量など顧客の要望に応じて営業担当者が編集し、完成させるアプリケーションを開発したのである。

このアプリケーションは4〜5年前から営業部門が熱望していたもの。RPGでは構築不能であったため、一時は外部に開発の見積もりを依頼したが、仕様が複雑で、コストに見合った実用可能なレベルに達しないと判断されたため、開発を見送っていた。

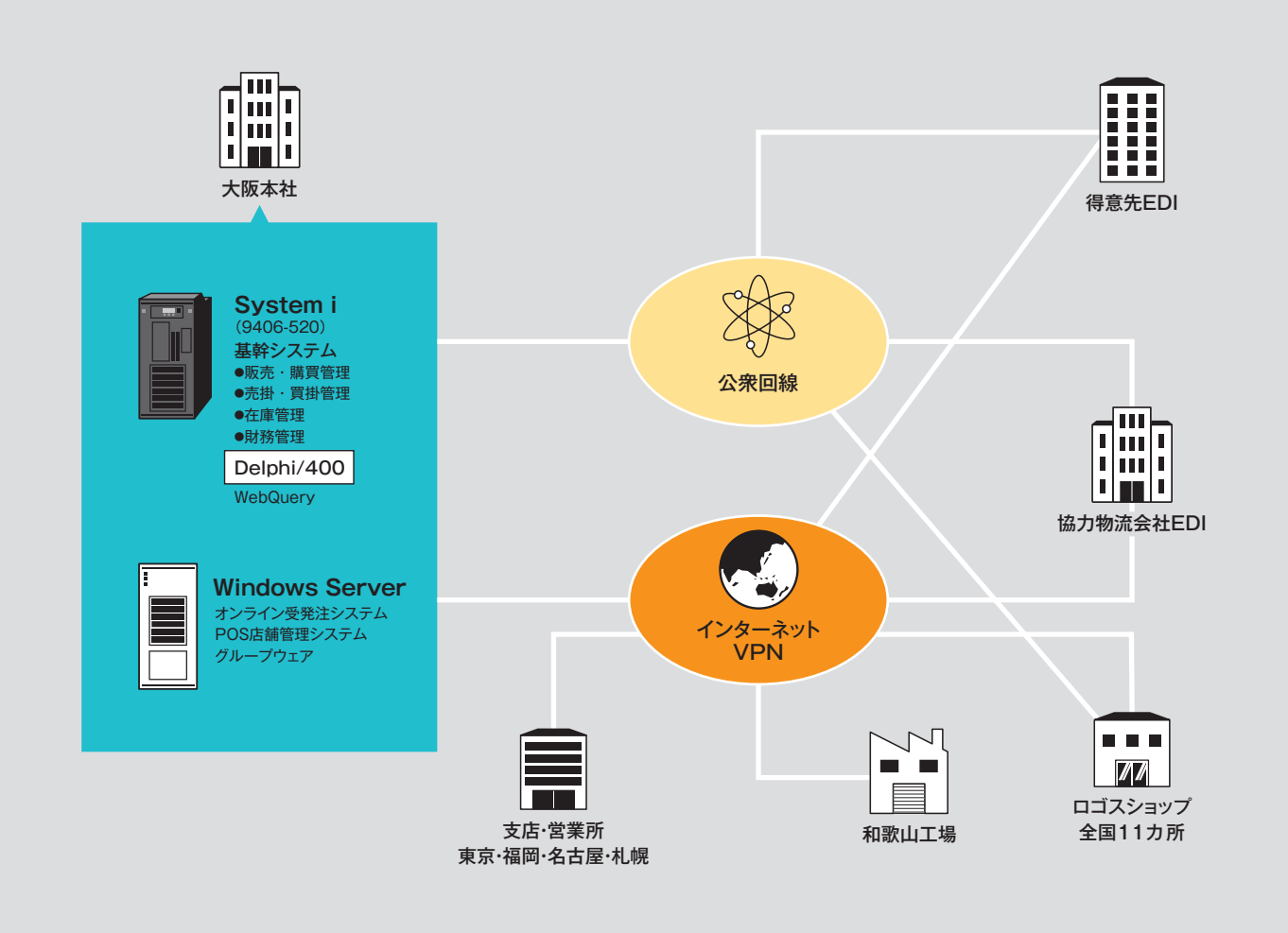
今回は同社にとってトレーニングを兼ねた第1号開発となったので、当初稼働予定の2008年3月が5月にずれ込んだが、営業部門からの評価は非常に高い。商品のセールスポイントや画像データが一元管理され、統一フォーマットにより商品提案書が自動化されるため、「満足度100%」との声が多く寄せられた。

Delphi/400導入成功の試金石を、このアプリケーションの完成度においていた情報物流室も、その後の開発に弾みがついたようだ。

次のアプリケーションは、実績を分析するための「予実照会システム」。1カ月の開発工数で2008年6月に完成。続いて、「品目情報照会システム」が同年7月から稼働した。

「Delphi/400はJavaと同じくクラスを利用するオブジェクト指向型の言語ですが、コンポーネントも多数用意され、簡単なプログラムであればほとんどコーディング不要で完成するなど、非常に使いやすいと感じています」(春木室長)

現在はクライアント/サーバー型で運用しているが、今後はGoogleのガジェットなどを含めWebサービスを組み込んだアプリケーションの開発を考えている。最終的にはサブシステム単位での照会系やエントリー系を組み合わせたWebアプリケーションをDelphi/400で実現していく方針のようである。



図表 システム概要